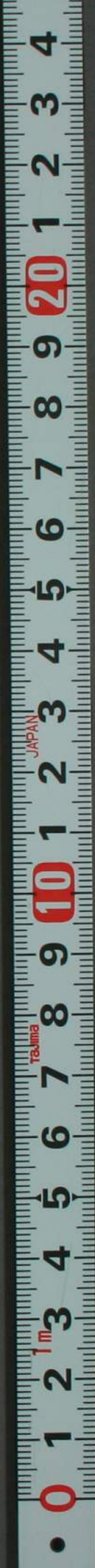


曲カ カ  
續ツ ツ  
たタ タ  
ぬヌ ヌ  
れレ レ  
茶チ チ  
上ウ ウ

特別  
79  
3914  
3





門 3914  
 3914  
 3



布



肥うの海う騎しあまく雨あめの夜よ月つきはよ歌うたもも古ふる  
 めめりりしし産うあまららつつぬぬ教しよとと集あつてておお流なが曲まが戯ま茶ちや  
 二ふた巻まきおお垂たままををろろめめねね未み人ひとああたた故ゆ又また彩いろ類るい向むか  
 ああつつめめとと老ろう翁おきな洞どうととううりり至さいののううりりむむふふままううをを  
 伝でん術じゆつ續つづ戯まが料りやうとと歌うたをを垂たままををねねむむひひるるたたるる色いろ

肥共 鬼友



續たしき草目録

ち鼓たいこ 鼓つこの鳴なりとままく何なにととりふふことととる

粥あわい 一丁目

泉せんすいの沸つり粥あわいの多おほく人のよよれれば志し州しゅうと

人ひと此こけけははううむむ粥あわい 四丁目

子こごごもも釜かまぬぬけけのの法ほ 五丁目

ままなな板いたの上うへはは新にんととののせせてて出いでで新にんの中なかへへ懸かりりて

もも又また索さく麵めんままてもも其その外ほかのの相あひとと出いすす粥あわい 六丁目

大豆まめのの和わ玉たま 七丁メ

虹にじととああららハハすす法ほ 八丁メ

夏なつのの山やま産うままへへ言いととややすす法ほ 九丁メ

茶ちや碗わんのの底そこをを洗せんととへへすすけけくく見みゆるゆる法ほ

并な濕しつののああらら地ちををきき地ちととああらら法ほ 同

紙しよよてて紙しりりくく人ひと形かたちひひちちりり歩ありり法ほ 同

鶏た卵たまごひひちちりり飛とぶぶ虚こ空くうををううてて懸かりり 十

磁やま物もののの新にんままてもも茶ちや碗わんままももららうう竹たけ或あるはは茶ちや此こ神かみままてもも



即座に鉤花生とくうへ花とせし法 同

通ひ玉の仕やう 十三丁メ

卧龍竹と捲る法 十三丁メ

蠟燭と中よつる術 十五丁メ

蠟燭の火吹けしとのれと独とがる術 同

蠟燭の火外の燭臺の蠟燭へをのれとくわり

とりの術 十六丁メ

海りを簪をせざる人までも自由よ曲すりと

ける術 同

衣服をながく袖はう襟へ細いと通し

て細いと結びめよ封と付てと封と切す

よ下糸と上へ巻うへて出る術 十七丁メ

うつむけてあるからと寄りてよても文字がらと

よても縋と見すよ何とひるをある術 同

遠くありく人は細いと付て引とめんとするよ

幾人してしてよとめられぬ志やこ 十八丁メ





ぞくたえふれ茶目録 平

腰の上は抱とのせり大カうけ身仕やう 十九丁メ  
 紙よてゆくる舟専の上と独りゆい術 同  
 龍泓玉と振る法 二十丁メ  
 芳我女印 草摺りひき 七丁メ  
 釣比奈三郎











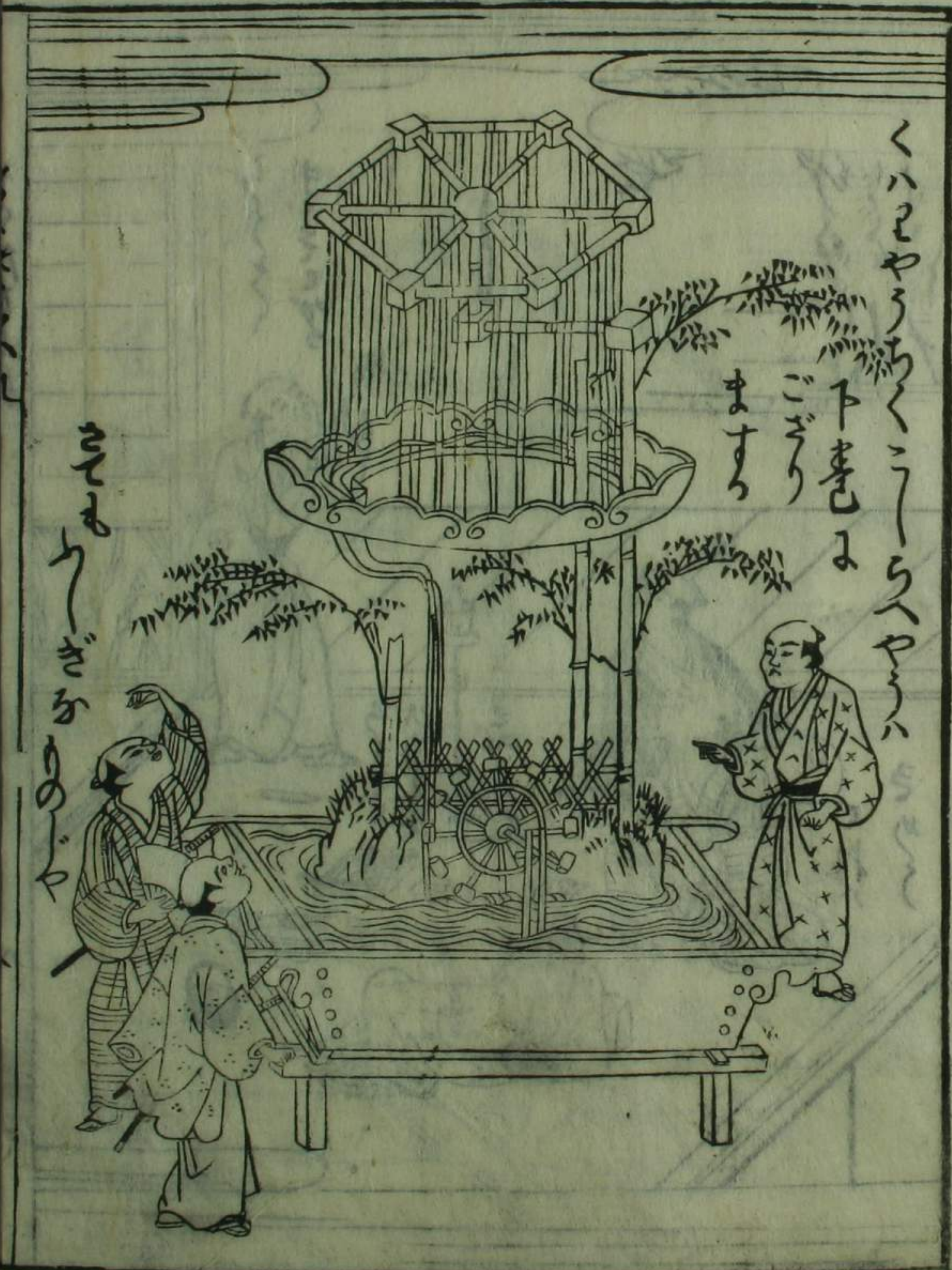


あまのこころ

あまのこころ

あまのこころ





あまのこころ

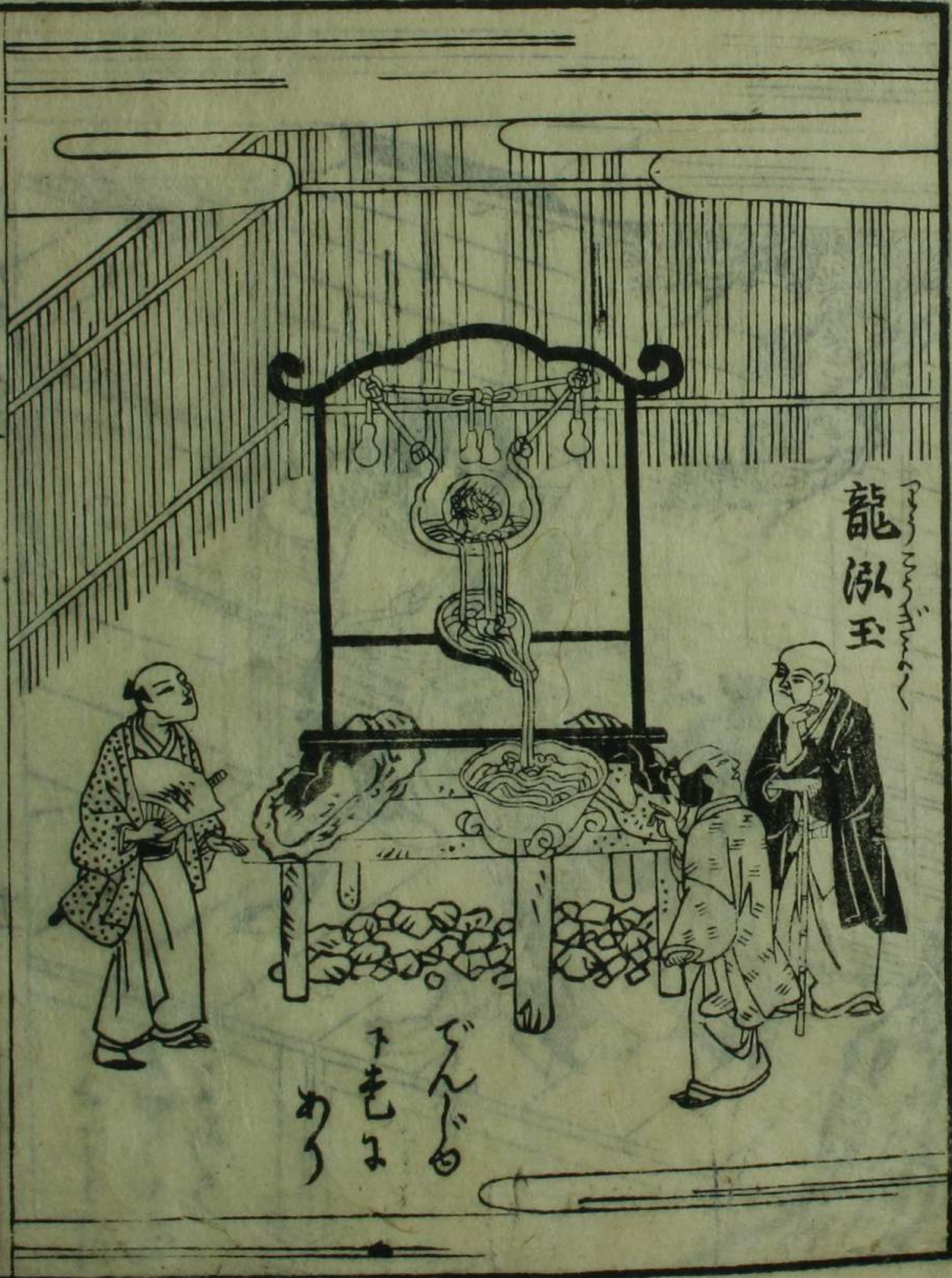












龍  
泓  
玉

らんご  
ろ  
ま  
り



お  
ま  
り  
の  
ま  
り

お  
ま  
り  
の  
ま  
り

お  
ま  
り  
の  
ま  
り





新編  
源氏物語  
卷之九  
藤原朝臣  
御成

十一

くさすり  
あやう  
はあり



